

24	オリンピック・パラリンピック準備局	障害者スポーツの振興
事業概要	<p>「東京都スポーツ推進総合計画」（平成30年3月策定）に基づき、障害のある人もない人も、誰もがスポーツに親しむ「スポーツ都市東京」を目指して、地域での環境整備を重点に据えながら、障害者スポーツの情報発信・普及啓発や障害者スポーツへの取組体制の強化も着実に促進するとともに、東京2020パラリンピックに向け、競技団体の基盤強化や選手の競技力向上策に取り組んでいる。</p>	
これまでの経過	<p>「東京都スポーツ推進総合計画」に基づき、以下の5つの点から施策を展開してきた。</p> <p>1 障害者スポーツの「理解促進・普及啓発」</p> <p>(1) 都内の障害者スポーツイベント情報や、公共スポーツ施設のバリアフリー情報等を掲載した障害者スポーツ専門ポータルサイト「TOKYO 障スポ・ナビ」を運営</p> <p>(2) 障害のある人もない人も共に楽しめる参加体験型スポーツイベント「チャレスポ! TOKYO」の開催</p> <p>(3) 東京2020パラリンピック及びパラリンピック競技の認知度向上と理解促進を目的としたパラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」の開催</p> <p>(4) 2020年以降も障害者スポーツが継続して社会に根付く土壌を作るため、障害者スポーツを応援する人を増やすプロジェクト「TEAM BEYOND」により総合的な普及啓発事業を実施</p> <p>(5) 障害者スポーツの魅力や競技会場で観戦・応援する楽しさを伝える映像「Be The HERO」、「FIND YOUR HERO」等を作成・活用</p> <p>(6) 競技団体が主催するパラリンピック競技の国際大会を共催により支援し、ハイレベルな戦いを観戦できる機会を都民に提供</p> <p>2 障害者スポーツの「場の開拓」</p> <p>(1) 「地域開拓推進事業」により、障害者スポーツ事業の企画・実施に関する相談や助言、障がい者スポーツ指導員の派遣、スポーツ用具の貸与を行い、区市町村や地域スポーツクラブ等の取組を支援</p> <p>(2) 区市町村が主体的に取り組む障害者スポーツ事業の支援をすることにより、身近な地域で継続的にスポーツを楽しめる環境を拡大・整備</p> <p>(3) 「都立学校活用促進モデル事業」により、障害のある方や障害者スポーツ競技団体等が、身近な地域でスポーツ活動ができるよう、都内にある都立特別支援学校の体育施設を学校教育活動に支障のない範囲で平日夜間や土日祝日に貸出すとともに、障害の有無に関わらず個人で参加が可能な、障害者スポーツをはじめとするスポーツやレクリエーションの体験教室を実施</p> <p>(4) 障害のある人のスポーツ施設利用に際して、施設管理者が配慮すべき点等をまとめた「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」を配布</p> <p>3 障害者スポーツを支える「人材育成」</p> <p>(1) 区市町村職員やスポーツ推進委員等を対象にセミナーを開催し、地域の障害者スポーツ事業を支える人材を育成</p> <p>(2) 障がい者スポーツ指導員養成講習会を通じて障害者スポーツの現場で実際に指導・支援にあたる人材を養成し、地域における障害者スポーツの取組を促進</p> <p>(3) 区市町村等が実施する障害者スポーツ事業の情報を収集し、障がい者スポーツ指導員等に対して、情報誌『S&S』として定期的に情報提供を行うほか、活動経験が少ない、又は活動にブランクがある指導員等を対象とした「リ・スタート研修会」及び障がい者スポーツ指導員等が一堂に会する「障害者スポーツフォーラム」を開催し、障害者スポーツを支える人材の活動活性化を促進</p>	

- (4) 障害者スポーツに関わる様々な団体が開催する研修会等で障害者スポーツをテーマとする講義を実施するなど、多様な担い手を育成する障害者スポーツ研修キャラバン事業の実施

4 障害者スポーツの「競技力向上」

- (1) 都内から障害者スポーツの次世代を担う選手を輩出することを目的に、「障害者スポーツ次世代ホープ発掘事業」を実施。競技体験プログラムや実技・座学を組み合わせたフォロープログラム等を実施し、競技者としてのスポーツ活動の継続・定着を促進
- (2) 東京における障害者スポーツ競技団体の体制整備と選手の競技力向上を目的とした競技団体の活動支援
また、講習会等により競技団体のガバナンス強化を実施し活動基盤の整備を促進
- (3) 東京 2020 大会等への出場が期待される選手を「東京アスリート認定選手」として認定し、競技活動の費用負担軽減のための支援やトレーニングプログラム等実践的な支援を行うとともに、選手をホームページ等で紹介し、都民の応援気運を醸成
- (4) 東京 2020 大会等国际大会出場を目指す選手を支える指導者やサポーター等を認定し、活動をホームページで周知することで、その存在や役割を広く社会に普及し、競技支援活動の環境改善を促進
- (5) 障害者スポーツを通じて、自らの体力の維持・増進及び社会への参加と相互の交流を促進させるとともに、障害のある人に対する都民の理解の増進を図り、もって障害のある人の自立の促進とスポーツ振興に寄与することを目的とした東京都障害者スポーツ大会の開催
- (6) 全国障害者スポーツ大会での東京都選手の活躍を目標に、大会正式競技の強化練習会を開催し、選手の競技力を強化
- (7) 東京都障害者スポーツ大会を実施すると共に、東京都障害者スポーツ大会・関東ブロック予選会等を経て選出された選手や役員で構成される選手団を、全国障害者スポーツ大会へ派遣

5 障害者スポーツを「支える土台づくり」

- (1) 東京における障害者スポーツ競技団体の体制整備と選手の競技力向上を目的とした競技団体の活動支援
- (2) 障害者スポーツ団体に、団体の課題に応じたビジネススキルや専門知識を有する企業人等のボランティア活動「プロボノ」を導入し、実用的な成果物を作成するプロジェクトを通じ、団体の基盤を強化
- (3) 「障害者スポーツの環境整備に向けた実務者会議」を設置し、障害者スポーツの環境整備に向けた連絡・調整を図るとともに諸課題について検討・協議
- (4) 「障害者スポーツコンシェルジュ」を設置し、障害者スポーツの支援に取り組む企業と競技団体や選手をつなぐ取組を実施

現在の進行状況	<p>「東京都スポーツ推進総合計画」に基づき、引き続き上記の事業を着実に実施するとともに、新たに以下の事業に取り組んだ。</p> <p>1 障害のある人が地域でスポーツ活動を継続できる環境を整備 建設から 30 年近くが経過し、施設の老朽化が著しい東京都障害者総合スポーツセンター及び東京都多摩障害者スポーツセンターについて、劣化診断結果や利用者ニーズ等を踏まえ、東京都障害者総合スポーツセンターは現在改修工事を行っており、東京都多摩障害者スポーツセンターについては今年度末より改修工事に着手する予定である。なお、東京都多摩障害者スポーツセンターの改修工事期間中については、味の素スタジアム内の室内施設を代替施設として運営する予定である。</p>		
今後の見通し	<p>2020 年東京パラリンピック大会と 2020 年後のレガシーを見据え、障害者スポーツ振興をより一層加速させるため、障害者スポーツの情報発信・普及啓発、場の整備や人材育成に取り組んでいく。</p> <p>また、2020 年大会までの残り期間を踏まえ、引き続き障害者アスリートの競技力向上に努める。</p>		
問い合わせ先	オリンピック・パラリンピック準備局 パラリンピック部 障害者スポーツ課	電話	03-5320-7729
	オリンピック・パラリンピック準備局 パラリンピック部 調整課	電話	03-5388-2218
	オリンピック・パラリンピック準備局 スポーツ推進部 調整課	電話	(東京都障害者スポーツセンター 及び東京都多摩障害者スポーツセンターの改修に関すること) 03-5320-7802